

医療人類学

ACADEMIC YEAR 2014

2014年6月6日(金)

リスク

「概念を提示してケースを読み解く」 サイクル3

人類学者の区別する二つの 観点：エティックとエミック

- **エティック(etic)**
 - 外部からの見方（科学的な見方となる傾向）
- **エミック(emic)**
 - ローカル内部の固有の観点からの見方

「リスク」に置き直すと、

- **科学リスク**
 - 確率、数学、計算上のもの
- **認識リスク**
 - 人びとの感じるもの（不安）

認識リスク

科学者は、確率論に基づいて「リスク」「安全」の情報を発信する。だが、その情報は、その科学者のいる国や地域の文化や社会の状況にもとづいている。そのため、科学者が発信する疫学と生物研究を基礎とした「リスク」は、違う国や地域では、理解されなかったり全く違った意味に解釈される。このような場合、科学者の言う「リスク」を前提とした制度をつくろうとしても、うまくいかないことが多い。つまり、個人の行動がつけられる文化的なモデルや、その行動のもつ意味をくみとる必要がある。 (cf. 杉下 n.d.)

ウガンダにおけるコンドームの利用



- **疫学研究を踏まえたリスク回避の方法**
 - コンドームの利用が勧められる。
- **コンドームの利用は少ない**
 - コンドームを利用することは、特定の決まった人ではない相手との性行為という意味を持っているから。

(Pool and Geissler 2005: 64)

- 科学リスク=HIVの感染
- 認識リスク=HIVの感染<信頼関係の損失

日本のMSMにおけるコンドームの利用



- **MSM: Men who have sex with men**
- **疫学研究**
 - 無防備なアナルセックス＝HIV感染のリスク要因
 - コンドームの利用＝HIV感染は予防可能
- **日本のMSMにおいてコンドーム利用が妨げられてきた要因**
 - コンドームは避妊具として使われてきた。
 - コンドームの使用を相手に求めると、信頼関係が損なわれる。
- **啓発活動による状況の改善**

(市川 2008; 砂川 2008)

- 科学リスク＝HIV感染
- 認識リスク＝HIV感染<信頼関係の損失
- 男女間のコンドーム利用との意味の違いは？